

市民活動推進事業に対するコメント概要

事業名	ART ACTION IMABARI 2018	
実施団体名	今治ホホホ座	
事業概要	商店街、丹下健三氏設計の今治市民会館、は一ぱりー、また市内に現存する歴史ある街並みや空き店舗を再利用した今治ホホホ座などを会場として使用し、音楽・アートイベント・トークセッション、ワークショップなどを行っていく。	
事業の発展性 (継続を希望する場合のみ)		
補助額	市補助額 500,000円 (総事業額 1,169,164円 補助対象経費 1,169,164円)	
コ メ ン ト	実施団体	<p>今治ホホホ座、商店街、今治市民会館、は一ぱりー、VISAGEを会場として使用し、音楽ライブ・トークセッション、ワークショップなどを行った。中ムラサトコをナビゲーターとした親子で楽しむアートワークショップシリーズは創作物を身に付けて商店街に繰りだし、子どもたちと触れ合っていたいただいた商店街のみなさんに大変喜ばれた。</p> <p>8月の作家西村佳哲さんを招いたトークセッションには20代～50代の幅広い年齢層の方々に松山、新居浜、西条からも足を運んでいただき、市議会議員や市役所職員にもご参加いただくなど非常に盛り上がった。</p> <p>また10月に開催した今治市民会館で行った「ぼくらの市民会館・秋」にも一日中途切れることなく来場があり(来場者数約400人)、イベント内企画として建築家の大野順作さんによる建築ツアーも実施。外から招聘したアーティストと地元の有志が混ざり合う有意義なイベントとなった。</p> <p>12月には、は一ぱりーのみなとホールを一つの喫茶店に見立てるイベント「喫茶みなと」を実施した。非常に人気のある音楽家3組を招聘し、遠くは大阪からも来場があり、その方からは「以前、今治に住んでいたのだが、このイベントに参加したくて数年ぶりに今治に帰ってきた。こんな素敵なイベントを開催してくれてありがとう。」と嬉しいお言葉を頂けた。</p> <p>2月には旧VISAGEを会場として利用する音楽&ダンスの融合イベント「タケオとヤミーの今治で逢いましょう」を開催した。このイベントはホホホ座が今治まちなか活性化サロンぷらっとと協力して開催した「空想商店街」とリンクさせ、非常に大きな相乗効果があった。本町一丁目で開催された空想商店街では二日間多くの店のシャッターが開き、大変にぎやかであった。今治出身京都在住の若い画家からは「商店街にお店を出す企画をずっとやりたかった。」と連絡があり、わざわざ京都から帰ってきて出店者のひとりになってくれた。また、協力いただいた商店街店主さんからは「店を閉めた時からこんな日が来るのをずっと待っていた。」と喜ばれた。そのフィナーレとしての旧VISAGEのライブはとても美しいものとなり、来場者からは「今治じゃないみたいだった。」と驚きの声があった。</p> <p>今年行った一連の活動を通して、「アート」をテーマとしたイベントは単なる集客数以上に、準備・開催の一連の動きの中でどれだけ地元の人に入って頂き、関係性を繋げていけるかに意味があると感じた。「自分も何かやってみよう！」と地元の方に思っていたいただけるイベントをこれからも開催したいと思っている。</p>
	市民活動推進委員	<p>熱意や自発性を感じる。</p> <p>アートや歴史的建造物、商店街等活用しての取り組みは継続していけば活性化につながるのではないかと。来年度以降、自主財源での運営が主体になると思うが、更なる広がりを期待したい。</p> <p>また、多様な活動に取り組み、次へつながる課題や目標を持っている。補助事業をステップアップとし次へ展開するにあたり、収益など自主財源を見込めるような活動へと広げ、地域活性に取り組んでもらいたい。費用面と事業の優先順位をつけることで、補助金がなくても継続できると思う。とても楽しい企画で継続してほしいと考える。</p>